

親方が撮った漁場風景

濃屋の港近くに八角形の洋風

出窓のある大きな建物があります。この建物は明治33年ごろ建築されたというニシン番屋です。ニシン番屋は、ニシン漁全盛のころ建てられ、経営者(親方)とその家族、漁夫などが漁期に一緒に生活し、作業した建物です。

この建物はかつて「濃屋の殿様」と称された木村家の番屋でした。今はもう閉じていますが、少し前までここは「濃屋茶屋」というレストランになっていました。平成



滝のある漁場(場所不明)

16年、所有者の菅原豊さんが、この番屋の暗室に、大量のガラス乾板があるのに気が付きました。ガラス乾板はカメラのフィルムの代わりで、これを入れて撮影します。

枚数にして200枚余りで家族や風景写真などが写っていました。これはすでに新聞報道されてご記憶の方も多いでしょう。今回、「いしかり砂丘の風資料館」でこの乾板を借りて調査していますが、この中ではかなりの枚数にのぼるニシン場の写真があることが分かりました。撮影年代は大正から昭和初期と見られ、木村家の当主木村哲男氏が自ら撮影したものが見られます。

ニシン場の写真は、木村番屋付近だけでなく、浜益区各地に及んでいます。親方が自ら撮影していたことから、漁の専門家ならではの目線の写真が多くあります。しかし、今では周りの風景が変わって撮影場所がどこであるのか、また写っている人物が誰であるのか分からなくなっています。

す。多分、写真を見れば地元の方の中には、これがどこで、写っている人が誰かまだ知っている方もいらっしゃるのではないかと思います。

現在、乾板から起こした写真を「はまます郷土資料館」の特別展『ニシン年代記』の中で公開しています。また、8月28日からは浜益支所のロビーでも展示していますのでぜひご覧になって、ご存じの方は教えてください。

(工藤義衛)



ニシン漁全盛期木村番屋

鰯 粕づくり(場所不明)

■「ニシン場親方の撮った写真展」

場 所 浜益支所1階ロビー

期 間 8月28日～9月30日

問合せ ☎62-3711 (いしかり砂丘の風資料館)

※会場には、感想や写真についての情報を書き込めるようノートを用意します。ぜひ情報をお寄せください

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

